

【第二章:縄文時代・弥生時代・古墳時代】

【日本の旧石器時代と日本列島の形成】

①旧石器時代の生活

氷河時代のころ、現在の日本列島→大陸と陸続き

→マンモスなどの大型動物を追い、大陸から日本へ移住

→打製石器を使用し狩猟・採集を行い、移住生活を送る。

②遺跡:岩宿遺跡(群馬県)→初めて発見された旧石器時代の遺跡

野尻湖(長野県) →ナウマンゾウなどの化石が出土

③日本列島の形成

氷河時代が終わり、海面が上昇→陸続きの部分が海となり、現在の日本列島ができる。

【縄文時代】

①縄文時代の生活

時期:1万数千年前から紀元前5世紀ごろ

道具:中小動物が出現→弓矢・骨角器・磨製石器を使用→狩猟・漁労・採集を行う。

特徴:縄文土器→縄目の文様・厚手でもろい・黒褐色・煮炊きに使用

貝塚 →縄文時代の人々が貝殻などを捨てたあと

竪穴住居→掘り下げた地面に柱をたてて草などで屋根をつけた住居

土偶 →土の人形・祈りやおまじないのためにつくられた。

遺跡:大森貝塚(東京都) :アメリカ人のモースが発見

三内丸山遺跡(青森県):縄文時代の大規模集落

【弥生時代の文化】

①稲作の伝来

紀元前5世紀ごろに稲作が大陸から九州北部に伝わる。

石包工(磨製石器)を使い稲を収穫→高床倉庫で貯蔵

②弥生土器の使用

弥生土器:簡素な模様や無文

薄くてかたい・赤褐色・煮炊きなどに使用

③金属器の使用

金属器→青銅器と鉄器に分けられる

青銅器:祭りに使用(銅剣・銅矛・銅鐸・銅鏡など)

鉄器 :農具・工具・武器に使用

【小国の成立】

①クニの形成

竪穴住居や高床倉庫などでムラをつくり、定住する→ムラ同士が争いクニとしてまとまる→貧富の差が広がり、身分の差ができる。

②遺跡

登呂遺跡(静岡県)

吉野ヶ里遺跡(佐賀県)

【中国との交流】

歴史書	時期	内容
「漢書」地理氏	紀元前1世紀	日本は「 <u>倭</u> 」とよばれ。100余りの小国に分かれる。
「後漢書」東夷伝	1～2世紀	倭の <u>奴国</u> が後漢に朝貢 →光武帝より「 <u>漢委奴国王</u> 」の <u>金印</u> を授けられる。
<u>魏志倭人伝</u>	3世紀	<u>邪馬台国</u> の女王「 <u>卑弥呼</u> 」が魏に朝貢 →皇帝より「 <u>親魏倭王</u> 」の称号と金印・銅鏡などを授けられる。

【ヤマト政権】

①ヤマト政権

3世紀前半	奈良盆地を中心とする地域に王(豪族)たちからなるヤマト政権が現れる。
5世紀	ヤマト政権全体の王は 大王(おおきみ) と呼ばれ、九州の大半～東北の南部までを支配する。
6世紀	姿勢制度を整備して発展。 地方豪族の反乱も平定

②古墳時代

大王や豪族たちの大きな墓として古墳がつくられる。

→**前方後円墳**:周辺に埴輪が並べられる

→ヤマト政権の勢力が拡大し、古墳が多く造られる→3世紀後半～7世紀までを古墳時代

<代表古墳>

大仙古墳(大阪府):**仁徳天皇陵**

稲荷山古墳(埼玉県):**ワカタケル大王**

【朝鮮との関係】

①朝鮮との関係

4世紀半ば

北方: **高句麗**

東方: **新羅**

西方: **百濟**

→日本は鉄資源を求め、南方の加耶諸国に進出→高句麗や新羅と対立→加耶諸国は6世紀半ばに滅亡

②渡来人から伝わる文化

中国・朝鮮半島との交流がさかん→日本列島に移り住んだ渡来人により、様々な文化が倭に伝わる

【内容】 **仏教・儒教・漢字・須恵器** など